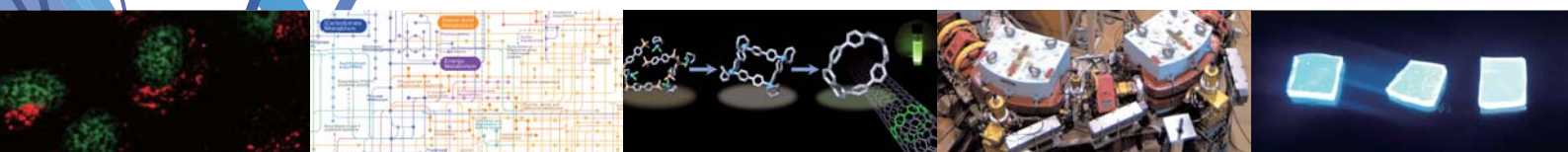


2011概要 京都大学化学研究所

Institute for Chemical Research, Kyoto University



																He												
																4.003 2 Helium												
				B	C	N	O	F	Ne																			
				10.81 5 Boron	12.01 6 Carbon	14.01 7 Nitrogen	16.00 8 Oxygen	19.00 9 Fluorine	20.18 10 Neon																			
				Al	Si	P	S	Cl	Ar																			
				26.98 13 Aluminum	28.09 14 Silicon	30.97 15 Phosphorus	32.07 16 Sulfur	35.45 17 Chlorine	39.95 18 Argon																			
				Zn			Ga	Ge	As	Se	Br	Kr																
				65.41 30 Zinc			69.72 31 Gallium	72.64 32 Germanium	74.92 33 Arsenic	78.96 34 Selenium	79.90 35 Bromine	83.80 36 Krypton																
				Cd		In	Sn	Sb	Te	I	Xe																	
				112.4 48 Cadmium		114.8 49 Indium	118.7 50 Tin	121.8 51 Antimony	127.6 52 Tellurium	126.9 53 Iodine	131.3 54 Xenon																	
				Hg		Tl	Pb	Bi	Po	At	Fr																	
				200.6 80 Mercury		204.4 81 Thallium	207.2 82 Lead	209.0 83 Bismuth	(210) 84 Polonium	(210) 85 Astatine	(223) 86 Francium																	
							112	113																				
				Ds		Rg																						
				(272) 110 Darmstadtium		(272) 111 Roentgenium																						

知の蓄積と多様な学問分野の連携・融合により、新しい研究分野の開拓を目指します。
京大化研は世界に向けて、新たな知への挑戦を続けます。

Preface



所長（第31代）
時任 宣博
TOKITOH, Norihiro

化学研究所は「化学に関する特殊事項の学理および応用の研究を掌る」ことを目的として1926年に設立された本学で最も歴史のある研究所です。「研究の自由」を旨とし、化学全般に関する先駆的・先端的の研究を推進するとともに、物理学、生物学、情報学へも研究の幅を拡げ、多くの優れた成果を挙げてまいりました。その結果、32研究領域、5客員研究領域、約100名の教員、約230名の大学院生を擁する大規模な研究所へと発展し、2004年以降、附属バイオインフォマティクスセンター、附属元素科学国際研究センター、附属先端ビームナノ科学センター並びに5研究系からなる「3センター・5研究系体制」をとっております。各研究室（研究領域）は、大学院の協力講座として理学、工学、農学、薬学、医学、情報学、人間・環境学の7研究科、13専攻の多岐にわたって協力関係にあり、「多分野共同体」としての特長を活かし、幅広い視野と複眼的な視点をもった世界トップレベルの研究者の育成に努めております。

最近の特色ある活動としては、複数のグローバルCOEへの参画や文部科学省特別経費「統合物質創製化学推進事業」の推進など、化学研究所としての連携・融合研究に対する積極的な取り組みに加え、持続発展可能な社会の構築という21世紀の人類に課せられた重要な課題への対応を視野に入れ、近未来のエネルギーや物質科学を研究するセクションとして「水化学エネルギー寄附研究部門」および「ナノ界面光機能寄附研究部門」を開設したことが挙げられます。化学研究所では、内発的、ボトムアップ的な取り組みの中から社会に貢献する研究を奨励し、

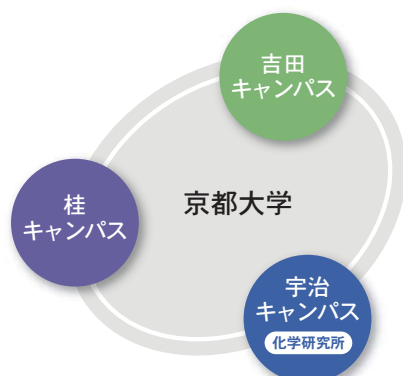
個性的な連携・融合研究の芽を活発に育てて行きたいと願っております。また、2010年からは、化学研究所は文部科学大臣の認定を受けた「化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際研究拠点」として共同利用・共同研究拠点の活動を開始しております。これは、化学関連分野の研究者各位からの要請を踏まえ、化学研究所の研究分野の広がりや深さ、そして豊富な連携実績を活かして先端・学際的共同利用・共同研究を推進するとともに、国内外の研究機関の相互協力を担保するハブ環境の提供を目指す活動です。多様でグローバルな化学研究の展開と次代の化学関連分野を担う若手研究者の育成を目指す本拠点の活動について、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。化学研究所としましては、激動する最近の内外情勢に柔軟かつ適切に対応すべく、「多分野共同体」としての特長は堅持しつつも、研究所の一体感を重視して諸問題に対処して行きたいと考えています。チームスポーツの世界でよく用いられる言葉ですが、「One for all, and all for one.」の精神で化学研究所を盛り上げて行きたいと願っています。

なお、この度私は3期目の化学研究所所長を拝命いただきましたが、昨期に引き続き副所長就任をお願いしました渡辺宏教授および二木史朗教授とともに、化学研究所の運営に全力を尽くしたいと考えております。これからも化研らしい独創的な取り組みの中から、魅力的な連携・融合研究の芽を育て、力強く開花させる所存です。今後の発展にご期待下さい。（2011年5月）

時任 宣博

Education

化学研究所の各研究領域は、それぞれ大学院研究科の協力講座として大学院教育に携わっています。



新たな知への挑戦

探究・連携・融合

境界領域に生み出す
新たな研究

Research

32の研究領域が5研究系3センターの研究体制を構成し、100名以上の教職員を含む数多くの研究者が、時代の先端を行く研究を繰り広げています。



有機



無機



生物



物理



情報

科学技術の基盤研究

期待される物質創製



環境物質化学研究系



元素科学国際研究センター



物質創製化学研究系



バイオインフォマティクスセンター



生体機能化学研究系



先端ビームナノ科学センター



材料機能化学研究系



複合基盤化学研究系

多様な化学関連研究分野

化学研究所 = 知の湧源

化学に関する特殊事項の学理および応用の研究
(since 1926)

History 「化学」を根元とした多様な「科学」の真理を 80 年以上にわたり追い求めてきた京都大学化学研究所

1926 化学研究所官制が公布される
「化学に関する特殊事項の学理および応用の研究」を開始

1929 大阪府高槻市に研究所本館が竣工



1962 文部省通達により大学院生の受入れが制度化される

1964 研究所が部門制により 19 研究部門となる
京都市左京区粟田口鳥居町(蹴上地区)に原子核科学研究施設の設置

1968 宇治市五ヶ庄に超高压電子顕微鏡室を竣工
化学研究所が統合移転



1971 極低温物性化学実験室の竣工

1975 微生物培養実験室、
中央電子計算機室の設置

1980 DNA 実験室の竣工



1985 生物工学ラボラトリーの設置

1988 原子核科学研究施設が宇治市五ヶ庄に移転
イオン線形加速器実験棟の竣工



1989 電子線分光型
超高分解能
電子顕微鏡が完成



1992 9 研究大部門 2 附属施設に改組
スーパーコンピュータ・ラボラトリーの設置

1999 共同研究棟の竣工



2000 事務部が宇治地区
事務部に統合

2001 バイオインフォマティクスセンターの設置



2002 寄附研究部門
プロテオームインフォマティクス(日本 SGI)研究部門の設置

2003 9 大部門 3 附属施設となる
元素科学国際研究センターの設置



2004 5 研究系 3 センター体制に改組
先端ビームナノ科学センターの設置
総合研究実験棟の竣工

2005 レーザー科学棟の竣工



2007 「碧水会」(同窓会)発足

2009 寄附研究部門
水化学エネルギー(AGC)研究部門の設置



2010 化学関連分野の深化・連携を基軸とする
先端・学際研究拠点活動開始

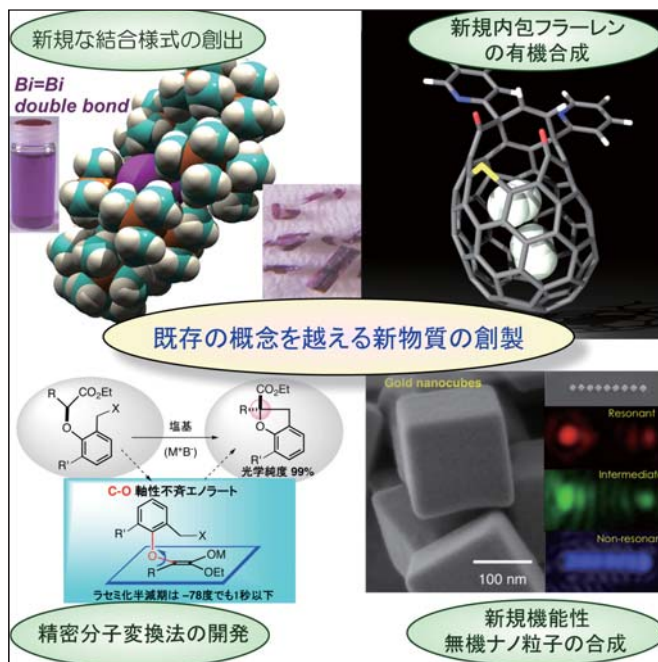
2011 寄附研究部門
ナノ界面光機能(住友電工グループ社会貢献基金)研究部門の設置
バイオインフォマティクスセンターを改組

物質創製化学 研究系

機能材料 Functional Materials

有機化学、無機化学の枠を超えた視点で「新規物質」を創製し、その構造、機能、物性を解明する。

本研究系では、各研究領域の個性的かつ独創的な研究を基礎としつつ、従来の学問領域の枠にとらわれることなく、既存の概念を超える新物質の創製という共通の目標を持って研究を展開しています。創出した新物質の特異な構造や興味深い性質の解明が、機能化学、物性化学、合成化学など幅広い分野に大きなインパクトをもたらすことを期待しています。



有機元素化学

理 教授 時任 宣博
准教授 笹森 貴裕
助教 水畑 吉行
助教 吾郷 友宏
技術専門員 平野 敏子



構造有機化学

工 教授 村田 靖次郎
准教授 若宮 淳志
助教 村田 理尚



精密有機合成化学

薬 教授 川端 猛夫
准教授 古田 巧
助教 吉村 智之
技術職員 藤橋 明子



精密無機合成化学

理 教授 寺西 利治

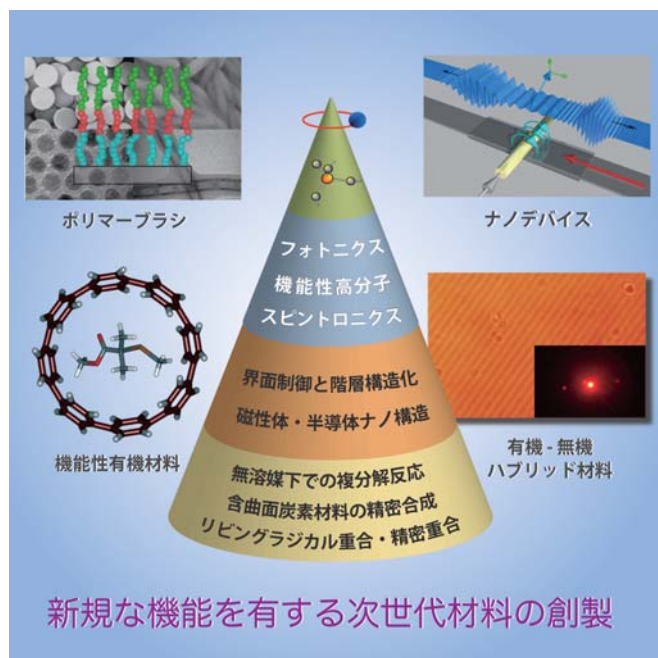


材料機能化学 研究系

ナノ材料 Nanomaterials

異種材料のハイブリッド化・複合化ならびにナノサイズ化に重点を置き、新規な機能を有する新世代材料の創製を目指す。

ナノサイズマクロ有機分子までの精密合成法を開発し、各種重合法を駆使して精密な高分子材料設計手法を確立します。また、有機-無機ハイブリッド化、超高密度グラフト表面の構築、人工多層膜-ナノ微細加工技術確立し、形状効果・量子サイズ効果をも最大限利用して電子の状態などを制御することにより新規な性質を示す機能性材料の創製と新規デバイスへの応用を目指します。



高分子材料設計化学

工 教授 辻井 敬亘
准教授 大野 工司
助教 榎原 圭太



高分子制御合成

工 教授 山子 茂
准教授 辻 正樹
助教 登阪 雅聡
助教 中村 泰之
特定助教 茅原 栄一



無機フォトリクス材料

工 教授 横尾 俊信
准教授 徳田 陽明
助教 正井 博和



ナノスピントロニクス

理 教授 小野 輝男
准教授 小林 研介
助教 千葉 大地
特定助教 関口 康爾
技術専門員 楠田 敏之

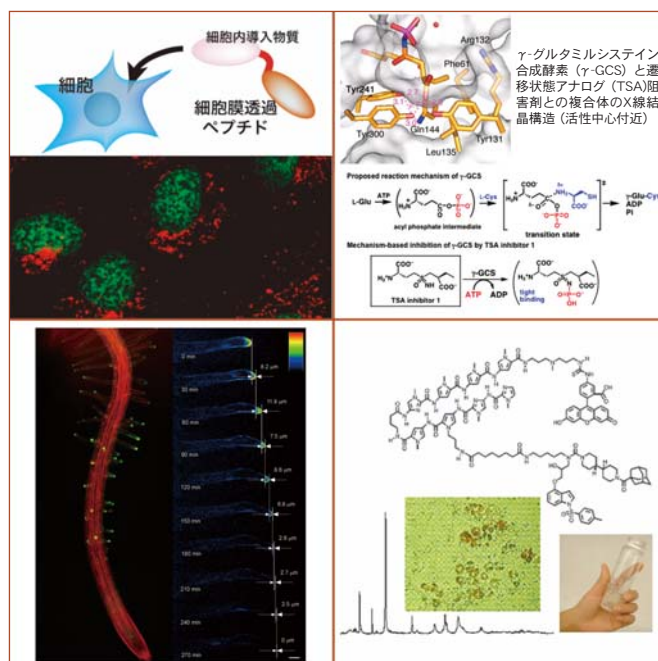


生体機能化学 研究系

バイオ Bioscience

生物現象を化学の切口で解明し、生体の認識、応答、合成などの諸機能を、物質創製に活かす。

本研究系では「細胞機能・遺伝子を制御する生理活性タンパク質の創製（二木）・生命を支える酵素の触媒機構や機能、生理的意義の化学的理解（平竹）・植物の環境刺激応答と遺伝的に規定される形態形成との接点に迫る（青山）・生理活性小分子化合物の発掘とそれら起爆剤とした生体医学研究（上杉）」などに取り組んでいます。



生体機能設計化学

薬 教授 二木 史朗
助教 今西 未来
助教 中瀬 生彦



生体触媒化学

農 教授 平竹 潤
助教 渡辺 文太
助教 肥塚 崇男



生体分子情報

理 教授 青山 卓史
准教授 相崎 弘幸
助教 柘植 知彦
技術専門員 安田 敏子



ケミカルバイオロジー

医 教授 上杉 志成
助教 川添 嘉徳
助教 下川 浩輝

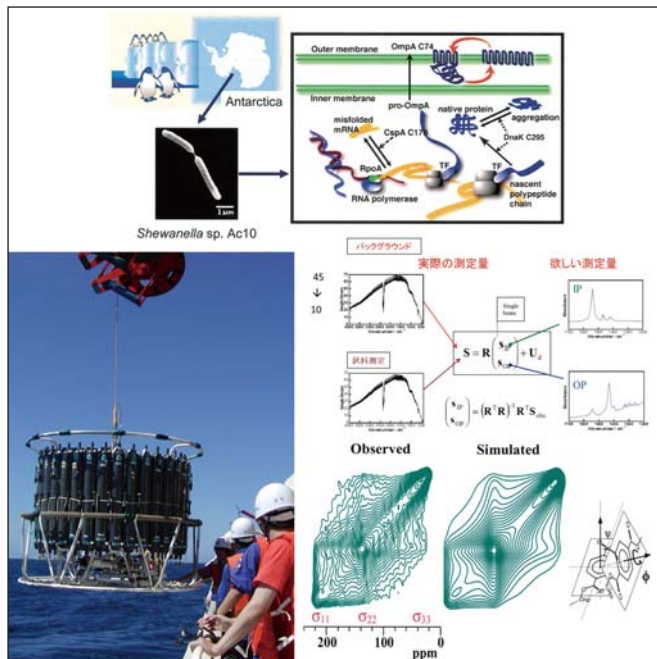


環境物質化学 研究系

環境 Environment

生命の源である水と水圏環境や微生物・酵素による環境調和物質を、分子から地球環境までの視点で、化学の切口から総合的に研究する。

主な研究は以下の通りです。(1) 新規有機デバイスの創製と基礎科学の構築、固体NMRによる構造-有機デバイス機能相関の解明。(2) 微量元素の水圏地球化学、新規な選択的錯生成系。(3) 振動分光法に多変量解析を導入した機能性薄膜や界面分子の構造解析、およびナノ不均一溶媒中での分子間相互作用。(4) 特殊環境微生物の生理機能解析と物質生産・環境浄化への応用。微量元素の生化学。



分子材料化学

工 教授 梶 弘典
准教授 後藤 淳
技術専門員 大嶺 恭子
技術職員 前野 綾香



水圏環境解析化学

理 教授 宗林 由樹
准教授 梅谷 重夫
助教 則末 和宏
技術専門員 南 知晴



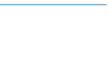
分子環境解析化学

理 教授 長谷川 健
准教授 松林 伸幸
助教 若井 千尋
助教 下赤 卓史



分子微生物科学

農 准教授 栗原 達夫
助教 川本 純

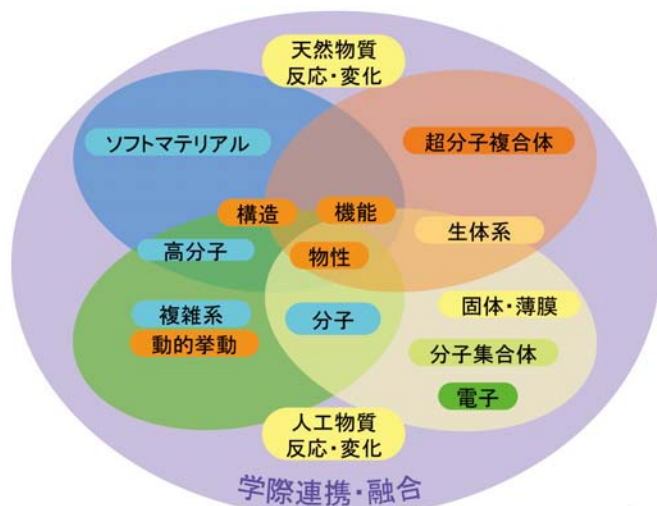


複合基盤化学 研究系

新基盤 Integration

理学と工学の融合的視点を開拓し、化学と物理学・生物学との境界領域に基盤を確立する。他の研究系・センターと連携しつつ、学際的視点も加えて、新世紀物質科学の萌芽的基礎研究を発展させる。

化学を基盤として自然科学の学際・融合的視点を育み、天然・人工物質の多様な現象を分子のレベルで捉える基礎研究を、他の研究系・センターとも連携しつつ、新たな物質科学の創造に向けてより複合的に進めています。



高分子物質科学

工 教授 金谷 利治
准教授 西田 幸次
助教 井上 倫太郎



分子レオロジー

工 教授 渡辺 宏
准教授 増淵 雄一
助教 松宮 由実
特定助教 畠山 多加志



分子集合解析

理 教授 佐藤 直樹
准教授 浅見 耕司
助教 吉田 弘幸
助教 MURDEY, Richard



超分子生物学

理

学際連携融合

工 教授 年光 昭夫

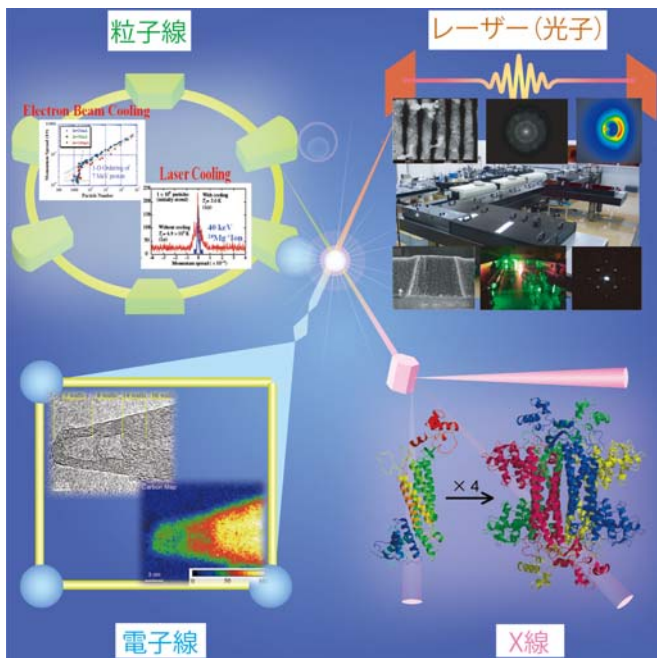


先端ビーム ナノ科学センター

極限 Extreme Conditions

各種ビームの融合による新奇ビームの開発、極限的な時空間解析法の開発、機能性化学物質の多元的な応用解析、共同研究体制の整備。

量子ビームの融合によるナノ時空間での物質先端科学創成。粒子ビーム・レーザービーム・電子線・X線の融合研究実現。物理・化学・生物の各視点からナノ時空間の現象観察と制御の学術を構築。高品位イオンビーム生成とそのダイナミクス、超高強度レーザー物質相互作用解析、極微スケール状態分析、化学反応パスウェイ解析、生命現象のダイナミカル追跡。



粒子ビーム科学

理 教授 野田 章
准教授 岩下 芳久
助教 想田 光
技術専門員 頓宮 拓



レーザー物質科学

理 教授 阪部 周二
准教授 橋田 昌樹
助教 時田 茂樹



複合ナノ解析化学

理 准教授 倉田 博基
助教 小川 哲也
助教 根本 隆



構造分子生物学

人 教授 畑 安雄
准教授 伊藤 嘉昭
助教 藤井 知実

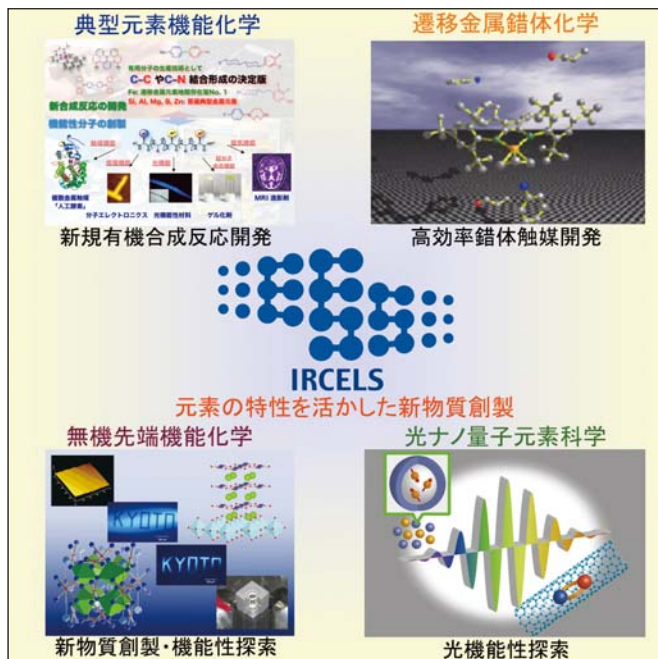


元素科学 国際研究センター

新物質 New Elementary Materials

物質の特性・機能を決定づける
特定元素の役割解明と、
有機・無機新物質創製の指針の提案。

本センターの掲げる「元素科学」というコンセプトは、元素の特性を活かした新物質創製研究を強力に推し進めるというものです。この新しいコンセプトと共に、既存の「分子科学」、「物質科学」と連携し、また橋渡しをしながら、元素の特性に着目し新しい有機・無機構造体の創製と機能開発に関する基礎・応用研究を推進しています。



典型元素機能化学

工 教授 中村 正治
准教授 高谷 光
助教 畠山 琢次



無機先端機能化学

理 教授 島川 祐一
助教 菅 大介
助教 齊藤 高志
特定助教 市川 能也



遷移金属錯体化学

工 教授 小澤 文幸
助教 中島 裕美子
助教 脇岡 正幸



光ナノ量子元素科学

理 教授 金光 義彦
准教授 太野垣 健
助教 井原 章之



バイオ インフォマティクス センター

ゲノム Genomes

バイオサイエンスの広範な知識と
統合した情報基盤の整備と、
バイオインフォマティクス(バイオ情報
学)の研究推進。

生命の設計図といわれるゲノムから、実際にそのはたらきや有用性を解読するには、高度な情報技術と優秀な人材が必要です。本センターでは、ゲノムの情報から生命システムの構築原理を理解する基礎研究、創薬・医療への応用技術開発研究、ゲノム解読の国際的なデータベース構築、若手人材育成プログラム等を推進しています。



化学生命科学

理 教授 金久 實
准教授 五斗 進
特定助教 時松 敏明
特定助教 小寺 正明



数理生物情報

情 教授 阿久津 達也
助教 林田 守広
助教 田村 武幸



生命知識工学

薬 教授 馬見塚 拓
助教 瀧川 一学
助教 HANCOCK, Timothy Peter

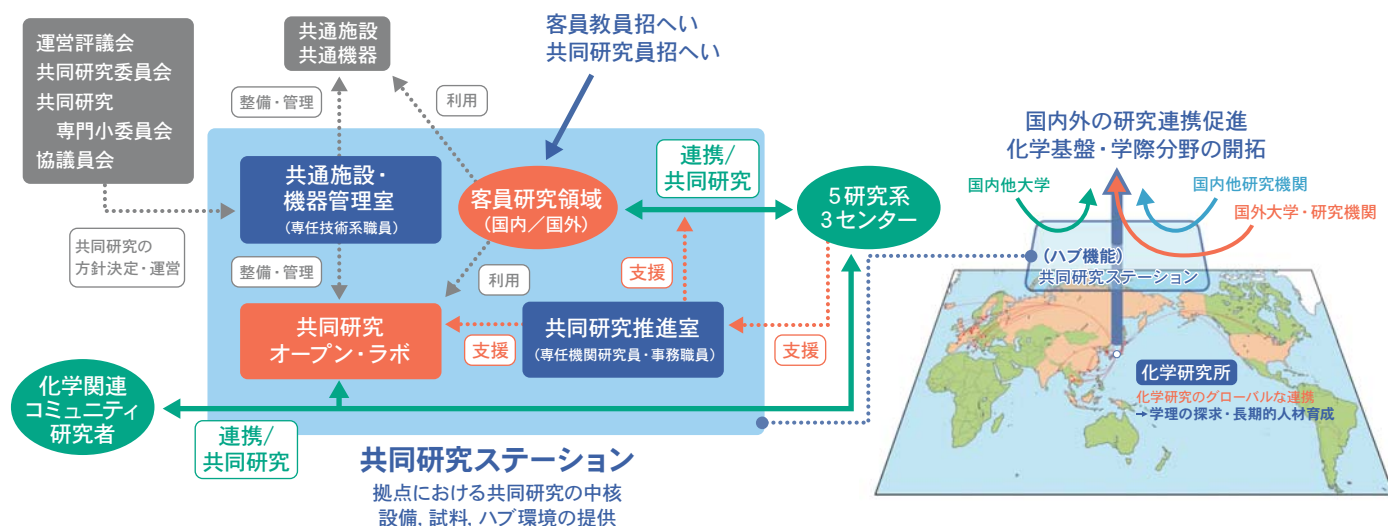


ゲノムネット推進室

教授(兼任) 馬見塚 拓

化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際研究拠点

継続：平成22～平成27



客員教員

物質創製化学研究系 有機元素化学 客員教授 岩本 武明 東北大学 大学院 理学研究科 教授	生体機能化学研究系 生体触媒化学 客員教授 藤井 郁雄 大阪府立大学 大学院 理学系研究科 教授	複合基盤化学研究系 分子集合解析 客員教授 阿波賀 邦夫 名古屋大学 物質科学国際研究センター 教授	元素科学国際研究センター 光ナノ量子元素科学 客員教授 芦田 昌明 大阪大学 大学院 基礎工学研究科 教授
材料機能化学研究系 高分子材料設計化学 客員准教授 森田 裕史 独立行政法人 産業技術総合研究所 主任研究員	環境物質化学研究系 分子微生物科学 客員准教授 阿部 文快 青山学院大学 理工学部 准教授	先端ビームナノ科学センター 構造分子生物科学 客員准教授 久野 玉雄 独立行政法人 理化学研究所 専任研究員	バイオインフォマティクスセンター 数理生物情報 客員准教授 NACHER DIEZ, Jose Carlos 公立はこだて未来大学 システム情報科学部 准教授

寄附研究部門

〔研究内容〕 ギ酸 (HCOOH) の熱反応の応用

高压高温状態の異なる条件下で、ギ酸 (HCOOH) から一酸化炭素 (CO) と水 (H_2O) あるいは、二酸化炭素 (CO_2) と水素 (H_2) に分解できるそれぞれの反応を応用して、人工的に水素エネルギーを生成、貯蔵、運搬できる社会への実用化を目指します。

水化学エネルギー (AGC)

客員教授 中原 勝
特定助教 辻野 康夫



〔研究内容〕 ナノ構造界面を活用した新しい光機能の創成

新しい光機能創成の手段として界面に着目し、ナノ物質科学の新領域の開拓を目指します。また、その成果からナノ材料を利用した新しい光エネルギー変換技術を実現することを目標としています。

ナノ界面光機能 (住友電工グループ社会貢献基金)

特定准教授 山田 泰裕
特定助教 岡野 真人
支援教員 教授 金光 義彦



化学研究所の理念

化学研究所は、その設立理念「化学に関する特殊事項の学理および応用の研究」を継承しつつ、自由と自主および調和を基礎に、化学に関する多様な根元的課題の解決に挑戦し、京都大学の基幹組織の一つとして地球社会の調和ある共存に貢献する。

1. 研究

化学を物質研究の広い領域として捉え、基礎的研究に重きを置くことにより物質についての真理を究明するとともに、時代の要請にも柔軟かつ積極的に対応することにより地球社会の課題解決に貢献する。これにより、世界的に卓越した化学研究拠点の形成とその調和ある発展を目指す。

2. 教育

卓越した総合的化学研究拠点としての特長を活かした研究教育を実践することにより、広い視野と高度の課題解決能力をもち、地球社会の調和ある共存に指導的寄与をなす人材を育成する。

3. 社会との関係

化学を研究、教育する独自の立場から、日本および地域の社会との交流を深め、広範な社会貢献に努める。また、世界の研究拠点・研究者との積極的な交流をととして地球社会の課題解決に貢献する。他方、自己点検と情報の整理・公開により、社会に対する説明責任を果たす。



特別経費

化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際研究拠点

化学研究所の全国共同利用・共同研究拠点としてのプロジェクト

■ 部局責任者：時任宣博 ■ 期間：平成22～27年度

統合物質創製化学推進事業

—先導的合成の学術基盤構築と次世代中核研究者の育成—

北海道大学触媒化学研究センター、名古屋大学物質科学国際研究センター、および九州大学先端物質化学研究所との共同研究プロジェクト

■ 部局責任者：小澤文幸 ■ 期間：平成22～27年度

グローバルCOEプログラム

物質科学の新基盤構築と次世代育成国際拠点

理学研究科化学専攻、工学研究科化学系6専攻および材料工学専攻との合同プロジェクト

■ 部局責任者：時任宣博 ■ 期間：平成19～23年度

光・電子理工学の教育研究拠点形成

工学研究科電子工学専攻、電気工学専攻、情報学研究科通信情報システム専攻との合同プロジェクト

■ 部局責任者：金光義彦 ■ 期間：平成19～23年度

普遍性と創発性から紡ぐ次世代物理学

—フロンティア開拓のための自立的人材養成—

理学研究科の物理学・宇宙物理学専攻の基幹講座に、基礎物理学研究所、化学研究所、花山・飛騨天文台、低温物質科学研究センターなどの協力講座が加わる合同プログラム

■ 部局責任者：阪部周二 ■ 期間：平成20～24年度

先端研究施設共用イノベーション創出事業

京都・先端ナノテク総合支援ネットワーク

京都大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学の連携プロジェクト

■ 部局責任者：島川祐一 ■ 期間：平成19～23年度

科学研究費

(代表例)

学術創成研究

物質新機能開発戦略としての精密固体化学：機能複合相関新物質の探索と新機能の探求

■ 研究代表者：島川祐一 ■ 期間：平成19～23年度

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP)

バイオインフォマティクスとシステムズバイオロジーの国際連携教育研究プログラム

■ 事業実施専攻長：馬見塚 拓 ■ 期間：平成21～25年度

ライフサイエンスデータベース統合推進事業

ゲノム情報に基づく疾患・医薬品・環境物質データの統合

■ 研究代表者：金久 實 ■ 期間：平成23～25年度

データ統合と新規分野データ活用のための基盤技術開発

■ 研究代表者：五斗 進 ■ 期間：平成23～25年度

受託研究など

産業技術研究助成事業費 (NEDO)	2件	戦略的創造研究推進事業 (CREST)	5件
戦略的創造研究推進事業 (さきがけ)	6件	戦略的国際科学技術協力推進事業	2件
地域イノベーション創出研究開発事業	1件	研究成果最適展開支援事業 (A-STEP)	2件
最先端・次世代研究開発支援プログラム	3件		

京都大学他部局との連携

学際融合教育研究推進センター 生存基盤科学研究ユニット

企画戦略ディレクター：渡辺 宏

サイト型研究 1件 (代表 畑 安雄 化学研究所特任研究員のユニット助教1名)
萌芽研究 3件 (代表 青山卓史、栗原達夫、徳田陽明)

学際融合教育研究推進センター 次世代開拓研究ユニット

運営協議会委員：佐藤直樹

(化学研究所所属のユニット兼務助教1名)

統合複雑系科学国際研究ユニット

メンバー：馬見塚 拓 渡辺 宏

Finance

経費

※間接経費を除く (単位：千円)

	人件費	物件費	グローバルCOEプログラム	科学研究費	産業連携費	その他補助金	奨学金寄付金	合計
18年度	1,415,903	1,199,340	152,811*	735,440	718,773	24,104	102,985	4,349,356
19年度	1,632,110	1,067,261	99,940* 86,160	720,470	447,062	34,000	114,760	4,201,763
20年度	1,452,332	1,167,882	84,140	677,260	373,392	26,800	144,051	3,925,857
21年度	1,427,345	1,674,285	78,040	654,393	493,848	46,715	86,580	4,461,206
22年度	1,250,402	1,207,053	78,040	385,677	484,481	66,040	153,355	3,625,048

平成18、19年度*は21世紀COEプログラム経費

人員構成

●教職員数

() は外数で客員教員数を表す

教授	准教授	特任准教授	助教	特任助教	技術職員他	特定研究員	小計	その他研究員	その他職員	小計	合計
29	22	1	39	8	9	8	116	23	33	56	172
(5)	(4)						(9)				(9)

(平成23年8月1日現在)

●研究生・研修員・受託研究員等

研究生	研修員	小計	学際特別研究員(PD)	受託研究員	民間等共同研究員	小計	合計
2	2	4	1	0	6	7	11

(平成23年5月1日現在)

●大学院学生数 (各研究科)

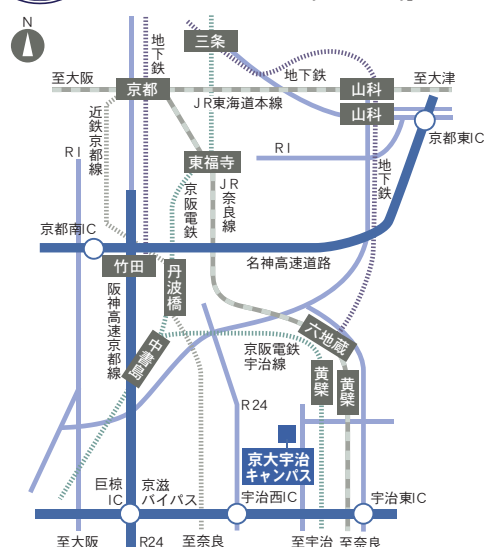
() は内数で外国人留学生を表す

	理学	工学	農学	薬学	医学	情報学	人間・環境学	合計
修士課程	36 (1)	55 (3)	8	17 (4)	1	6 (3)	2	125 (11)
博士課程	38 (3)	18 (3)	8 (5)	18 (4)	1 (1)	4 (1)	1	88 (17)
合計	74 (4)	73 (6)	16 (5)	35 (8)	2 (1)	10 (4)	3	213 (28)

(平成23年4月15日現在)



京都大学化学研究所

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄
Tel : 0774-38-3344 Fax : 0774-38-3014
E-mail : koho@scl.kyoto-u.ac.jp

京阪宇治線「黄檗駅」下車、徒歩約10分 (三条→黄檗 所要時間約35分)

JR奈良線「黄檗駅」下車、徒歩約7分 (京都→黄檗 所要時間約20分)

車でのアクセス : 京都南インターチェンジから約20分

宇治東インターチェンジから約10分

宇治西インターチェンジから約10分

●Webで京都大学化学研究所の最新情報を
www.kuicr.kyoto-u.ac.jp/index_J.html